

肝炎とは？

肝炎とは肝臓に炎症が起きている状態、つまり肝臓の細胞が破壊されている状態をさします。肝炎を引き起こす原因は様々ありますが、日本では肝炎の多くが「ウイルス性肝炎」と言われています。

A型、E型肝炎は一過性の感染でキャリア化（ウイルスが体内に入りそのまま存在すること）はありませんが、急性肝炎を発症した場合は稀に劇症肝炎に移行し、重傷化して死亡することがあります。

B型C型肝炎は血清肝炎で、過去には売血や輸血等で人から人へ感染していました。そのため、人と人との接触があるスポーツではB型C型肝炎ウイルスに感染する可能性があります。

	ウイルス	感染経路
A型肝炎	A型肝炎ウイルス(HAV)	経口感染(貝類の生食など)
B型肝炎	B型肝炎ウイルス(HBV)	血液・体液による水平感染(性感染・汗・涙)輸血※
C型肝炎	C型肝炎ウイルス(HCV)	血液・体液による水平感染(性感染・汗・涙)輸血※
E型肝炎	E型肝炎ウイルス(HEV)	経口感染(鹿肉、豚レバーの生食など)

※現在は輸血用血液製剤による感染はない

スポーツの特性と肝炎

スポーツには必ず対戦相手があります。競技者間の接触の度合いはフル、セミ、リミテッド、ノンと4つの段階に分けられており、肝炎ウイルスに感染する可能性が一番高いのはフルコンタクトスポーツです。激しい接触のあるフルコンタクトスポーツは、怪我によって血液に直接接触する可能性が多く、同時に汗等の体液に接触する可能性も高率です。

しかし、ノンコンタクトスポーツでも更衣室の着替えや寮生活等を考えると感染の可能性が全くないわけではありません。



B型・C型肝炎の現状

日本には、B型肝炎ウイルスキャリアが慢性肝炎患者を含めて100万人から150万人おり、そのほとんどが検査をしなければわからない（自覚症状がありません）無症候性キャリアです。また、C型肝炎ウイルスキャリアは慢性肝炎患者を除き150万人前後の存在が知られています。

B型肝炎ウイルスキャリアの一部は慢性肝炎を発症すると、その後肝硬変から肝臓がんに行進し、生命に危険を及ぼすこととなります。B型肝炎ウイルスキャリアに対する抗ウイルス療法もありますが、C型肝炎ウイルスキャリアの治療と比較すると治療率が低くなります。一方、C型肝炎ウイルスキャリアは、B型肝炎ウイルスキャリアと比較して慢性肝疾患から肝臓がんに行進する率は高くなりますが、今後、抗ウイルス療法によりC型肝炎ウイルスキャリアは減少してきます。

現在では2016年から生後2ヶ月の乳児にB型肝炎ワクチンが公費で接種可能になり、この時期から3回接種することになります。2016年以前に生まれた方でB型肝炎の抗体を持っていない場合はB型肝炎ワクチンの接種を勧めます。B型肝炎ウイルスキャリアの方でも、今までに自然感染してB型肝炎ウイルスキャリアの抗体を獲得されていても、B型肝炎ワクチンの接種は問題ありません。また、医療機関で採血しB型肝炎ウイルスの抗体の検査をおこない、抗体が十分あれば予防接種の必要はありません。

現在、がんになることを予防するワクチンといえばB型肝炎ワクチンと、子宮頸がんワクチンのみです。B型肝炎ワクチンや子宮頸がんワクチンは任意接種ですので希望すれば誰でも受けられます。

